



阿南東部高齢者お世話センターだより



阿南市宝田町今市
金剛寺 43
特別養護老人ホーム
阿南荘内
TEL 22-4577

令和5年2月号

阿南高齢者お世話センターのホームページはこちら→



第2層 阿南市生活支援体制整備協議会 開催

2月16日、富岡公民館で行いました。阿南高齢者お世話センターの事業や今取り組んでいること、これからの課題について報告しました。ご近所デイサービスやご近所ヘルパーに加え、こども食堂やフードパントリー、ひきこもりの人への支援等今までになかった活動も始まっています。

認知症の人への支援や、成年後見制度の活用、災害時に向けての対策なども地域の中で進めていく大切な課題です。

皆さんの協力をいただきながら、できることから進めていきたいと思えます。



認知症と防災についてまなびましょう

2月24日津乃峰総合センターで開催された「岩城クリニックベストフレンドミーティング」に参加しました。

まず、「認知症と防災」として、認知症の人と家族の会・徳島県支部代表、大下直樹さんに教えていただきました。今からできる事として、避難先で発生する困りごとを想定し、避難グッズを準備すること、認知症サポーター養成講座の受講等を通して、認知症の基礎知識を学習しておくこと、養成講座の内容に、災害や避難所生活の心得等を盛り込んでいくこと、があります。

いつもと違う環境では、当然ストレスがかかり、認知症の周辺症状は強く出てきます。備えがあるかどうか、認知症の知識があるかどうか大きく左右されることは、想像できます。

次に「認知症と防災について考える」として、阿南防災士の会・青木正繁さんに教えていただきました。緊急地震速報等が流れたときは、とにかく身を守る行動をとる。そして「避難所」「避難場所」のピクトグラムを知っていれば、自宅から離れた場所、初めての場所で被災しても、安全な場所にたどりつくことができます。

今すぐできることとしては、医療機器の取り扱い先やかかりつけ医、担当ケアマネジャーの事業所の連絡先をまとめてメモしておく、などです。

認知症の人への接し方は、どのような場合でも焦らせず、落ち着いて声掛けをする。本人になるべくわかるように説明する、静かな場所で過ごす、なるべく周囲の人に認知症の事を知ってもらう、などです。

本の紹介

「目の見えない白鳥さんとアートを見に行く」

川内有緒著 集英社インターナショナル出版

アート鑑賞が好きな作者は、同じ趣味を持つ仲間から白鳥さんを紹介されます。白鳥さんは全盲の男性。大学時代から様々な場所でアート鑑賞をしてきたとのこと。目が見えない人が、いったいどうやってアートを見るのか？想像もできなかった作者ですが白鳥さんとのアート鑑賞が段々楽しみになっていきます。

目が見えない白鳥さんとのアート鑑賞を通じて、「見えている」人が、実は思いこみや勘違いに左右されていること、関心を持たなければ視覚として認識しても、脳が処理しないことを体感していきます。



出来町サロン エンディングノートのお話

2月8日、出来町サロンで、DVDを視聴しながらエンディングノートについてお話をしました。参加された方の中には、「大切な書類は一つにまとめて、家族が探した時にすぐ分かるようにしている。」という方もいました。このノートをきっかけに、いざという時慌てないように、何か一つでも気にかかることに手を付けてみてはどうでしょうか？

DVDとともに、「懐かしの富岡」の写真も一緒に観ていただきました。昔の風景をみると自然に会話がはずみ、いろいろな事を思い出し、楽しい時間を過ごせたのではないかと思います。